昭和47年卒同期会

令和8年7月17日（金）秋田キャッスルホテルで関根浩一君の瑞宝双光章受章を祝う会が開催され、同期のクラスメイトやゴルフ仲間など20名が集いました。発起人の木元慎一君が挨拶し、「秋田県庁職員として産業労働部での功績や退職後の産業界に貢献してきたことを評価いただいたもの」と紹介がありました。続いて一昨年叙勲を受けた千葉豊明君が乾杯し和やかな宴がスタートしました。友人のスピーチでは、山王中学時代のバスケットボール部での活躍が披露され、更に参加者の高校時代の写真がスクリーンに映し出され大いに盛り上がりました。（小松 文男 記）



昭和49年卒同期会

49卒同期会は、一昨年の「古希を祝う会&卒業50周年記念同期会」を機に、毎年開催することとし、今年は8月8日、協働大町ビルを会場に43名が参加した。

小林和世さんから「様々な機会・出会いを一つ一つ取りこぼさず、限りある人生を大切に過ごしましょう。今日の再会に深く感謝して乾杯!」との発声で開宴。久しぶりの参加者の近況報告や、東京同期会「秋友会」と南東北同期会「仙秋会」の幹事からは、参加の呼びかけがあった。

紫色の学生服姿で登場した荘司裕さんのリードで声高らかに校歌斉唱。小泉ひろみさんの中締めの後、同ビル1階の『魚河岸』の二次会には、30名が参加。一次会は3年次、二次会は1年次のクラス単位でテーブルを囲み、さらに旧交を温めた。会話が弾み別れがたい気持ちを抑えつつ、健康でまた会おうと次回の再会を固く誓い、小玉真一郎さんの三本締めで散会した。（佐藤 悦紹 記）



昭和41年卒同期会

『汝何の為にそこに在りや』を、3年間生でシャワーを浴びた我々S41卒生も傘寿の節目を迎えることに相成りました。その鈴木スフィンクス健次郎校長の問いに、はたして有効なる答えを返してこられたものかしら。

550名の卒業生から、その人生の難問模索サバイバー35名が集いました。会長川村氏は挨拶で、この1年間に逝去された同期生を紹介。皆、黙祷。校歌リードは紫紺の会前会長川合氏で、流石シマルーっ。最遠来大阪鈴木氏の宴オープンスピーチは体験を交えた健康留意のおすすめ。

今回も宴会中に集合写真に名前を入れ、完成写真とともにお渡しするという名前忘れ防止サービスは好評継続。

傘寿でおしまいは寂しいとの声多数、会長談にも空気醸成あればまたもあり、それを受け「それではまたね」の田口氏一本締めで閉会したのでした。（柴田 義弘 記）



昭和42年卒同期会（四二会）

四二会開催の案内状には午後6時開会とあるのだが、今回の会場一番乗りは午後4時半。まだ5時前だというのに続々と参加者たちが集まり受け付け前にはちょっとした行列ができた。集合時間が年々早くなっている。

9月5日、協働大町ビルに66人の同期が集合した。本番が始まるまでの間、参加者たちは県外から駆けつけた9人も交えて満面に笑みを浮かべながら話に夢中だった。友との再会が皆、待ち遠しくうれしいのだ。四二会は物故者への黙とう、校歌の斉唱でスタート。高らかに乾杯の杯を挙げると、会場は堰を切ったように再び大きな話し声と笑いに包まれた。地域活動、趣味や旅行など多彩な話題で盛り上がるほどに美酒は心地よく体にしみた。締めくくりは校友会歌の大合唱、来年もまたここで会おうと誓って散会した。（石井 仁 記）



❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返しできません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉